

改訂版の発刊にあたって

本ガイドブックの初版を刊行してから早くも7年が経った。ゼミ活動が充実し、ゼミ活動が他の科目での学習と有機的に結びつくならば、法学部での学びは、学生のみなさんが社会に出てから逞しく活躍してゆくための能力の養成にとっても有益である。執筆者一同はこのように確信していたからこそ、このようなガイドブックをまとめることを志したのだった。この7年の間にも大学をめぐる環境は大きく変わったけれども、こうした確信は揺らぐどころか、ますます深まっている。

この改訂版では、Ⅲ章「ディベートをやってみよう！」に大幅に手を加えた。ディベート教育は、うまく大学での学びに組み込むことができたなら、学生のみなさんの論理的思考力を鍛えるのに大変よい手段になる。そこで、ディベートを軸にして、レジュメ・レポートの作成、図書館利用、学外見学などのアカデミック・スキルを有機的かつ体験的に修得する手助けになるガイドブックを作ろう。本ガイドブックのこうした基本コンセプトにはいささかの変化もない。

今回の改訂では、こうしたディベートの「質」を上げていくことを目指した。具体的には、①与党と野党がなにを目指してディベートすべきかを明示したことで、議会式ディベートにより臨場感をもって取り組めるようにし、②「スピーチ概略シート」「批判シート」「反論シート」を導入することで、ディベートの立体的な論理性により自覚的になれるようにすることを試みた。

他の章は基本的には初版のままであるけれども、Ⅲ章はこれらの章のハブ的な位置を占めるので、今回の改訂によって本ガイドブックは全体として、これを使用する学生のみなさんの能力向上にいっそう役立つものになったと信じた。議会式ディベートに臨場感をもって取り組んだ経験があれば、学外見学からもより多くの気づきを得ることができるだろう。論理の立体性を体得したならば、それはレジュメやレポートの作成に直接に役立つはずだし、図書館で見つけ出した資料をよりよく活用できるようになるはずである。

また、法律文化社のホームページに掲載している本ガイドブックの付録も引

き続き活用していただけたら嬉しい。本ガイドブックを使用されてお気づきの点があれば、次の改訂に活かさせていただきたく、出版社を通じてご教示いただければ大変にありがたく思う。

2019年2月

執筆者一同